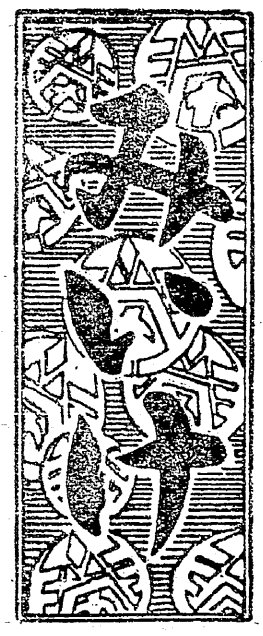
発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 山下 開
半年間600円 送料共



やっぱり統一組合を

坑内夫Aさんの不思議な訴え

三川指導部日刊紙〝みかわ〟（NO一六＝四月二十七日発行）は、「働けば働くほどもうからない」という、坑内夫Aさんの不思議な話を伝え、春闘への決意を示した。

歩増カードを指さしながら、Aさんが語ったという話。

×

C作業（請負賃金）したこの日を、みて下さい。日役の賃金と比較して、五十円しか多くないんです。

あんまり頭にきたもんだから、主席係員に、「金にならんとわかっている時はCでは繰りこまず、B（固定給作業）で繰りこんでくれ」、といったら、主席は「できん、できん」の一点ばりですよ。「C級の単価表にものっていない作業を、次からつぎへさせとってカードを見たらBだった、というのが、一度や二度ではなかったですよ。

Bの三倍も四倍もしんどうしてたった、この五十円ですけんね。

もらう給料袋の薄かばかりについだまされて、「C作業、C作業」といっていくと、はじめのうちこそ、少々金にいる目ばつけるばってん、いつの間にか単価は下げてくる。

同じしこもらおうとするなら、以前の二倍も三倍も働かんなら、でけんとですよ。昼休みも、三十分くらいしかとらず、飯もロッカーの前で食うありさまで。

こがんも仕事して、技術があるの、ないの、と難くせつけ、合建（差別賃金）しては競争させるとやけんな。

これからはコツコツ日役どんして、停年までガタのこんごつ、しとった方がうんと利巧かですばい。

結局、作業量と賃金は、全然関係のなかこつば知りました。

問題は、三池、新労、組夫の仲間全体を含めた統一組合ばつくることですな。

働いてもこの低賃金

三池も新労も組夫も一緒だ

大牟田市における生活保護家庭の標準生計費

（4人家族1カ月の場合）

世帯主	(35才)	9,495円
その妻	(30才)	8,050円
長男	(9才)	8,000円
長女	(4才)	5,925円
家族数による手当		8,500円 (2類)
9才児の教育費		695円
同上の給食費		1,000円
家賃(最高)		7,000円
計		48,665円

以上のほかに、母親が病気で4才児が保育所にはいるときの補助 11,000円

病気や妊婦(6ヵ月以上)に加算 3,555円

以上合計 63,420円

三池CO患者遺族を守る会ニュース

〈第八〇号〉

新聞コンクール開催

熊本県総評

熊本県総評は、いよいよ〝新聞コンクール〟を開催する。職場新聞・地域や主婦会の諸新聞の積極参加を期待している。

炭労 いよいよ実力段階へ

炭労は、かねてから春闘にのぞむ内部体制づくりをすすめていたが、九日に中央闘争委員会を開いて、いよいよ賃上げ一万二千円ほかの春闘要求の獲得を目指し、実力行使を軸とする今後の日程を決定した。

これにもとずいて、三池労組はすでに各指導部にさらに具体的な指示を行なったが、炭労の闘争日程は次の通りである。

二十三日　二四時間ストライキ
二十六日　右に同じ。
三十～三十一日　四八時間ストライキ。
六月二～三日　右に同じ。
以後毎週火～水曜、金～土曜に四十八時間ストライキ。

炭労の春闘は、こうしていよいよ決戦の段階へはいってゆく。

昨年回答次々突破

春闘 強まる労仂者の力

〝不況下春闘〟の名で闘われている春闘は、ぞくぞく昨年を上まわる回答を獲得。

近くの例が三池製作労組で、昨年を九百円上まわる九千三百円。さらに大合理化をさえ余儀なくされた三井東圧化学の賃上げ回答が、これまた昨年を上まわる九千四百五十円。

全国的には、去る十三日現在で五ケタ（つまり一万円以上）の回答を獲得したのが、二千四百九十九組合。これも昨年を相当数上まわった。原動力は明らかにストライキを中心とした実力闘争の発展経済的不況下にあるとはいえ、人間的に生きることこそ第一の権利だ、ということを示している。

稲田末雄さん急死

CO中毒にけい肺重なる

去る九日、三池のCO患者の命がまた一つ消えた。稲田末雄さん（五十七才。荒尾市原万田社宅居住）で、余りにも突然な死に、まわりの人びとはおどろいている。三池労組員だけでも、CO患者の死亡はこれで十人めであるが、このように、仲間たちが次つぎに死んでゆく事実を前に怒りと共に、とくにCO患者のなかから「CO患者の死亡は、全員公傷死と認めよ」、との要求が燃えあがっている。

生前の稲田さん

稲田末雄さんは、もちろん昭和三十八年十一月九日のあの大爆発が生んだ、CO患者の一人であるが、もともと罹っていた〝けい肺〟の方がその後進行。現在〝北九州労災津屋崎病院〟に入院（四十五年十一月に〝管理四〟と認定され、長期傷病給付を受給）のうえ療養中なのだったが、三日から〝病院外泊〟を許され、帰宅中のできごとだった。

稲田さんも例にもれず、去る四十一年労災補償を打ち切られた患者であるが、爆発のときは意識不明のところを救出され、坑口からそのまま〝中島外科〟にかつぎこまれ、治療。

その後意識回復。労災病院が置かれると、そちらへ皆と一緒に移ったところで、労災補償を打ち切られたが、聞けば「稲田さんは、ちょこちょこ意識不明になっていた」というが、被災前は見ごとな字を書き、何かにつけきりっとしていた性格が、いっぺんにだらーっとくずれてしまったところが、CO中毒患者としてのきわだった特徴だった。

隣りの社宅にすむ森川敏春さん（三池労組員）に聞けば、次のように語っている。

「五日のこと、妻の全快祝いの心ばかりのごちそうをもっていったら、それをよろこんでたべ、その翌々日か、病気で寝ているという妻のあきみさんの父親の見舞いにいき、髪をつんでやったあと、ラーメンでもたべようかと箸をとろうとしたところが、突然手にけいれん。そのまま意識不明になって倒れたらしい」

すぐさま嘉病院にかつぎこまれ酸素吸入、点滴、注射と心からの手当ても空しく、最後には、ノド元を切り開いてタンを除去しなければならないまでに至り、ついに九日午前二時永眠したのだった。

もう片肺はすっかり用をなさなく固まってしまっていたというから、稲田さんの命をかくもちぢめたものは、明らかにけい肺とCO中毒症とが重った、典型的な原因ということができる。

CO患者の死亡者は全員公傷扱いにせよ

打続く犠牲に湧く怒り

三池のCO患者のうちすでに、次の人びとが死んでいる。

松本 常男さん 四十一年
松永 義登さん 四十二年
水谷 種重さん 四十二年
江崎 豊さん 四十三年
大坪 一郎さん 四十三年
片山福太郎さん 四十三年
下河 竹次さん 四十四年
西本 正人さん 四十四年
高尾 国治さん 四十六年

こんどの稲田末雄さんの死は、従って十人めである。

しかし以上は三池労組員のCO患者ばかりで、爆発後満五年めに大牟田労災療養所が明らかにした資料によれば、新労組の患者も、満五年めで死亡二五人となっており、これからすればかなりの死亡数となるだろう。現に去月二十六日にも、新労のCO患者の一人―田下てるおさん（三十七才。九・二八坑内火災被災者。緑ケ丘暁町）が、診療を受けるためにやってきていた、三井病院天領町本院で不意に倒れ、死んでいる。

「脳軟化症」という解剖所見を口実に、会社は〝私傷〟としてかたずけたが、すでに田下さんの中毒症は悪化していたことからすれば、これとて〝CO中毒〟に起因していることは疑えず、会社はすんで〝公傷死〟扱いとすべきところであろう。

CO患者で、これまで〝公傷死〟と認定された人は、下河竹次さんたった一人。とまれ、CO患者は、明らかに三井鉱山の人命軽視・保安無視・生産第一主義がひき起こした大災害の被災者であり、共にCO中毒症に悩み、苦しむCO患者の声にまつまでもなく、死者はすべて〝公傷死〟扱いとすべきであること、いうまでもない。

とまれ、心から稲田末雄さんのご冥福をお祈りする。

沖縄を防波堤にするな

屈辱の5月15日に……T・K生

沖縄県民は、「基地はいらない。軍隊はいらない」と、叫び続けています。米軍がわずかばかり出てゆくかわりに、日本の自衛隊が乗り込んでゆくのです。数多く米軍から受けたキズのうえに、こんどは同じ日本人である自衛隊から侵されようとしています。

沖縄県民は、かって日本国民の防波堤として、数多くの犠牲をはらってきました。私たちは同じ日本人として、これ以上沖縄を私たちの防波堤にすることはできません。

沖縄百万県民と共に、心から喜び、笑える祖国復帰を勝ち取るまでがんばりましょう。（四山五分会新聞〝きずな〟から）

沖縄百万県民の願いもむなしく、いつわりと、基地に包まれた沖縄が帰ってきました。アメリカの支配からのがれただけでそのなかみはまったく以前と同じです。